

第149回エイズ動向委員会
委員長コメント

《平成28年 年間報告（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は平成28年1月1日～平成28年12月31日までの1年
（速報値は平成27年12月28日～平成28年12月25日の四半期ごと速報値の合計）
2. 新規HIV感染者報告数は1,011件で過去8位
3. 新規AIDS患者報告数は437件で過去6位
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は1,448件で過去9位

【感染経路・年齢等の動向（確定値）】

1. 新規HIV感染者：
 - 同性間性的接触によるものが735件（全HIV感染者報告数の約73%）
 - 異性間性的接触によるものが170件（全HIV感染者報告数の約17%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に20～30代が多い。
2. 新規AIDS患者：
 - 同性間性的接触によるものが241件（全AIDS患者報告数の約55%）
 - 異性間性的接触によるものが114件（全AIDS患者報告数の約26%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、特に30歳以上が多く、50歳以上が約29%を占めている。

【検査・相談件数の概況（平成28年1月～12月）】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数（確定値）は118,132件で過去11位
うち、陽性件数は421件
2. 保健所等における相談件数（確定値）は119,382件で過去20位

【献血の概況（平成28年1月～12月）】

1. 献血件数（確定値）は、4,841,601件（前年4,909,156件）
2. そのうちHIV抗体・核酸増幅検査陽性件数（確定値）は48件（前年53件）
10万件当たりの陽性件数（確定値）は、0.991件（前年1.080件）

《まとめ》

1. 平成28年は、新規HIV感染者報告数及び新規AIDS患者報告数ともに横這い傾向である。
2. 新規HIV感染者及び新規AIDS患者報告の感染経路として、性的接触によるものがそれぞれ90%、81%で、中でも男性同性間性的接触によるものが多い傾向も変わっていない。HIV感染症は予防が可能な感染症である。適切な予防策をとり、HIV感染の可能性があればまず検査を行って頂きたい。

3. 献血10万件当たりの陽性件数は昨年に比して減少した。
4. 保健所等におけるHIV抗体検査のうち、陽性となった件数は421件である。近年の新規HIV感染者報告数の40%以上が、保健所等で診断されていると考えられる。国民の皆様には、保健所等の無料・匿名での相談や検査を積極的に利用いただきたい。
5. 新規HIV感染者・新規AIDS患者報告数に占める新規AIDS患者報告数の割合は、約30%のままで推移しており、病気が進行した時点で診断される例が多い。早期発見は個人においては早期治療、社会においては感染拡大の防止に結びつく。自治体におかれては、予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮した検査相談体制を推進していただきたい。